

# 通信指令施設の更新整備

令和 3 年 6 月  
警察庁生活安全局生活安全企画課  
警察庁情報通信局通信施設課

# 通信指令室の職務

通信指令室は、都道府県警察の本部（方面本部を含む）において、次に掲げる活動を行うものとする。

- 1 110番通報その他の緊急通報を受理すること。
- 2 事件、事故その他の警察事象に対する初動的な措置に必要な画像その他の情報を集約すること。
- 3 指令、手配、通報等を行うこと。
- 4 無線通話の統制を行うこと。
- 5 緊急配備に係る指令等を行うほか、所掌部門が態勢を整えるまでの間の初動的な措置に関し、警察職員並びに警察用車両、警察用船舶、警察庁航空機の運用に係る指示その他の必要な指令等を行うものとする。

① 110番通報



② 受理



③ 指令等



警察署 通信室

無線指令

無線指令

④ 臨場



# 通信指令室の職務と通信指令施設



映像  
(導入予定)

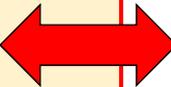


音声

① 110番通報

④ 臨場

通信指令室



他部門・  
他組織等  
との連携



監督  
(通話の傍受・割り込み等)

総合指揮

② 受理



情報共有

③ 指令等



無線指令

警察署

無線指令



# 通信指令施設と連携する地方費システム例

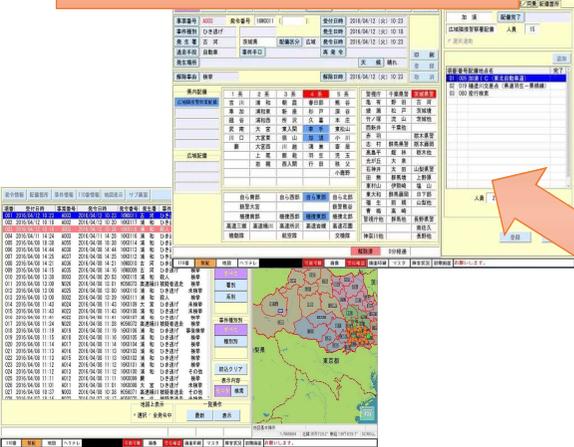
## 大型映像システム



## 地図情報等

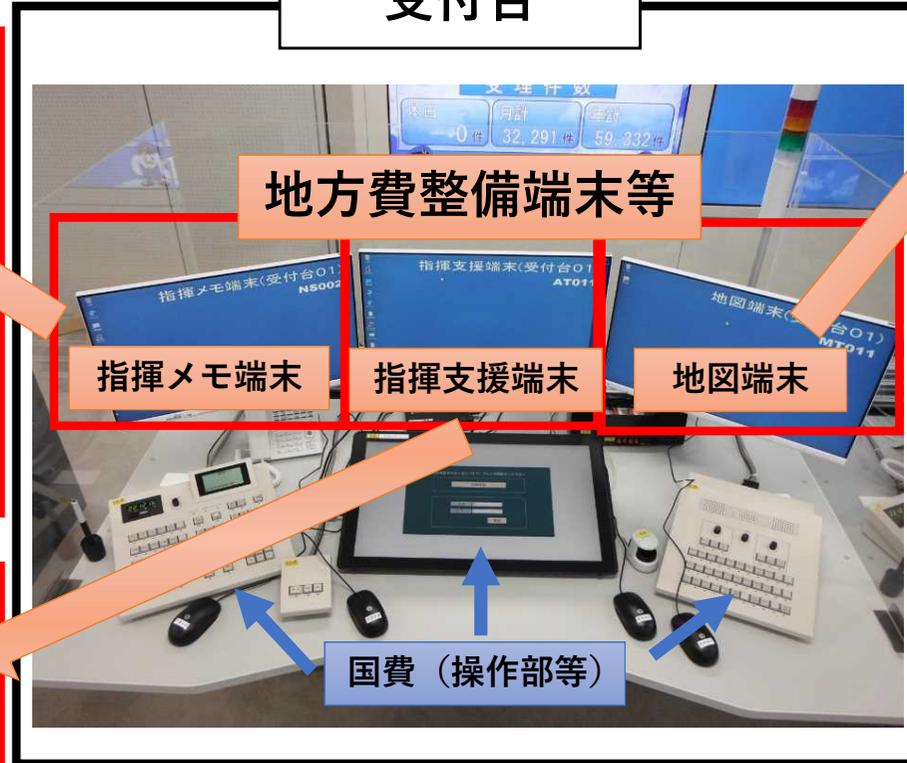


## 緊急配備情報等



## 受付台

## 地方費整備端末等



## カーロケーションシステム

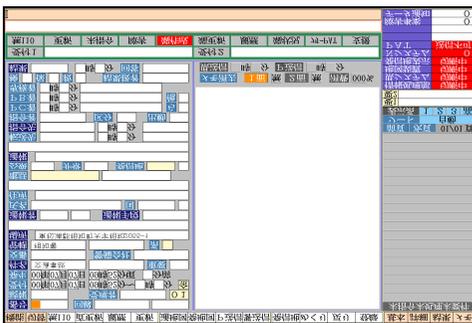
### 位置情報



### 画像情報の共有



## 110番受理情報等

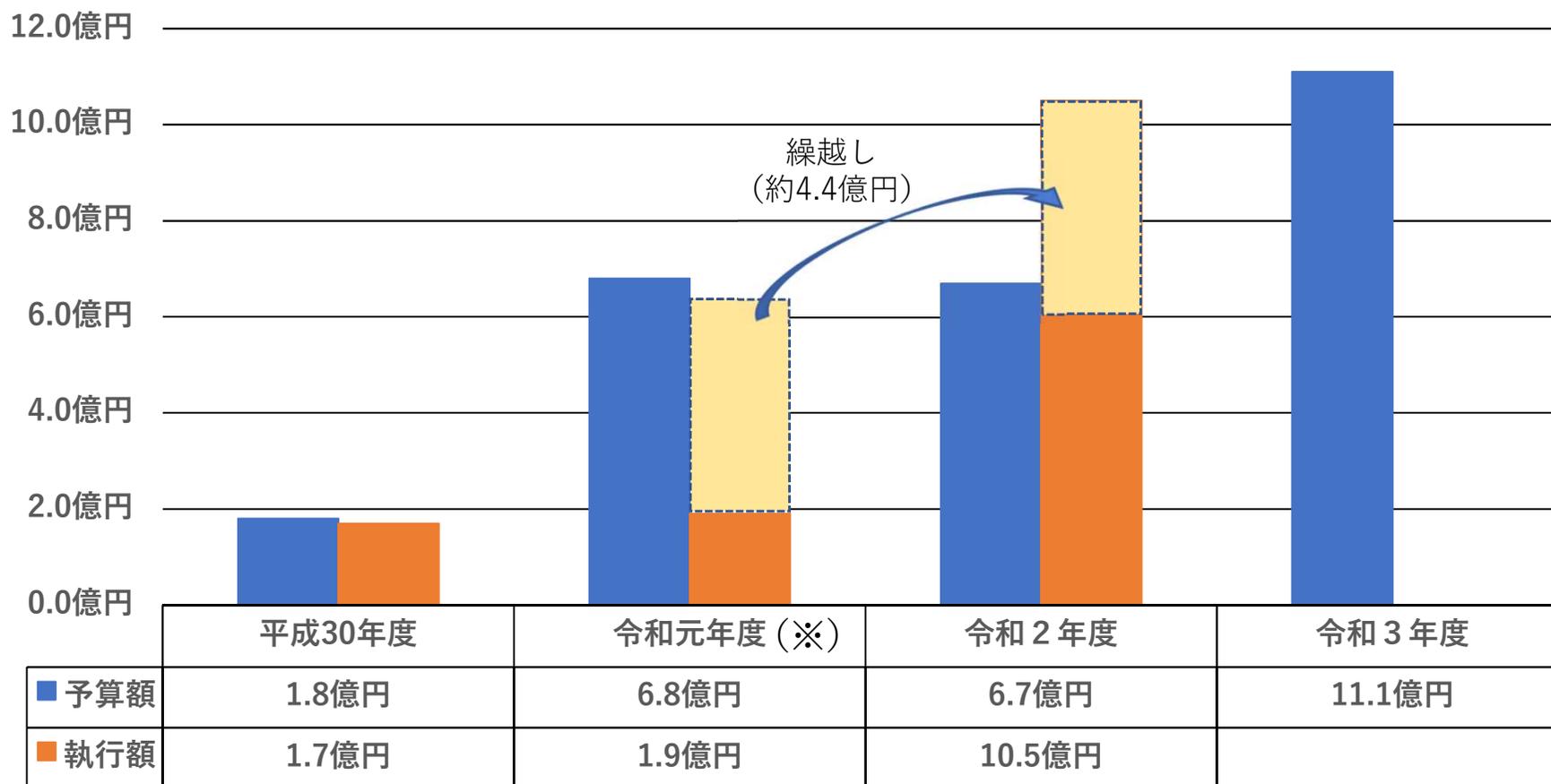


国費整備：通信機器  
 地方費整備：警察活動を支援するためのシステム

# 「通信指令施設の更新整備」の事業概要

- 国費により整備した通信指令施設のうち、老朽化が著しく、保守・運用に支障を来す恐れのあるものについて、更新整備を行うもの。

予算額及び執行額の推移



※ 令和元年度にあっては、製造メーカーの工場が台風で被災したため年度内に納品されず、約4.4億円を翌年度に繰り越している。

# 通信指令施設更新整備計画

## 更新サイクル

- 通報分配系（通報分配部、受付台、指令台等）：買取（おおむね12年周期で更新）
  - ※ 110番通報の受理、無線指令を行うもの
- 情報処理系（情報処理部）：リース（おおむね6年周期で更新）
  - ※ 事案情報等の通信指令業務に必要な各種データを取り扱い、他システムと接続するもの

更新サイクル



## 今後の整備計画

- 予算が特定の年度に集中しないよう留意しながら、計画的に更新する。

整備箇所数（計画）

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
全体更新 (通報分配系及び情報処理系)	6	4	2	6	6
情報処理系更新	3	3	8	4	8

# コストダウンに向けた取組

## 更新サイクルの延長

	通報分配系	情報処理系	※ライフサイクルコスト（試算）
法定耐用年数	10年	5年	約3.2億円／10年
採用更新サイクル	12年	6年	約3.4億円／12年

※ A県における、整備から廃止までに要する経費（機器料・リース料・工事費）の試算額

削減効果

A県においては、約11%の経費削減（試算上）

## 設置工事の分離調達

110番通報の特殊性から、製造可能業者が限られる。

→ 機器の調達と設置工事を分離調達しており、競争性を確保

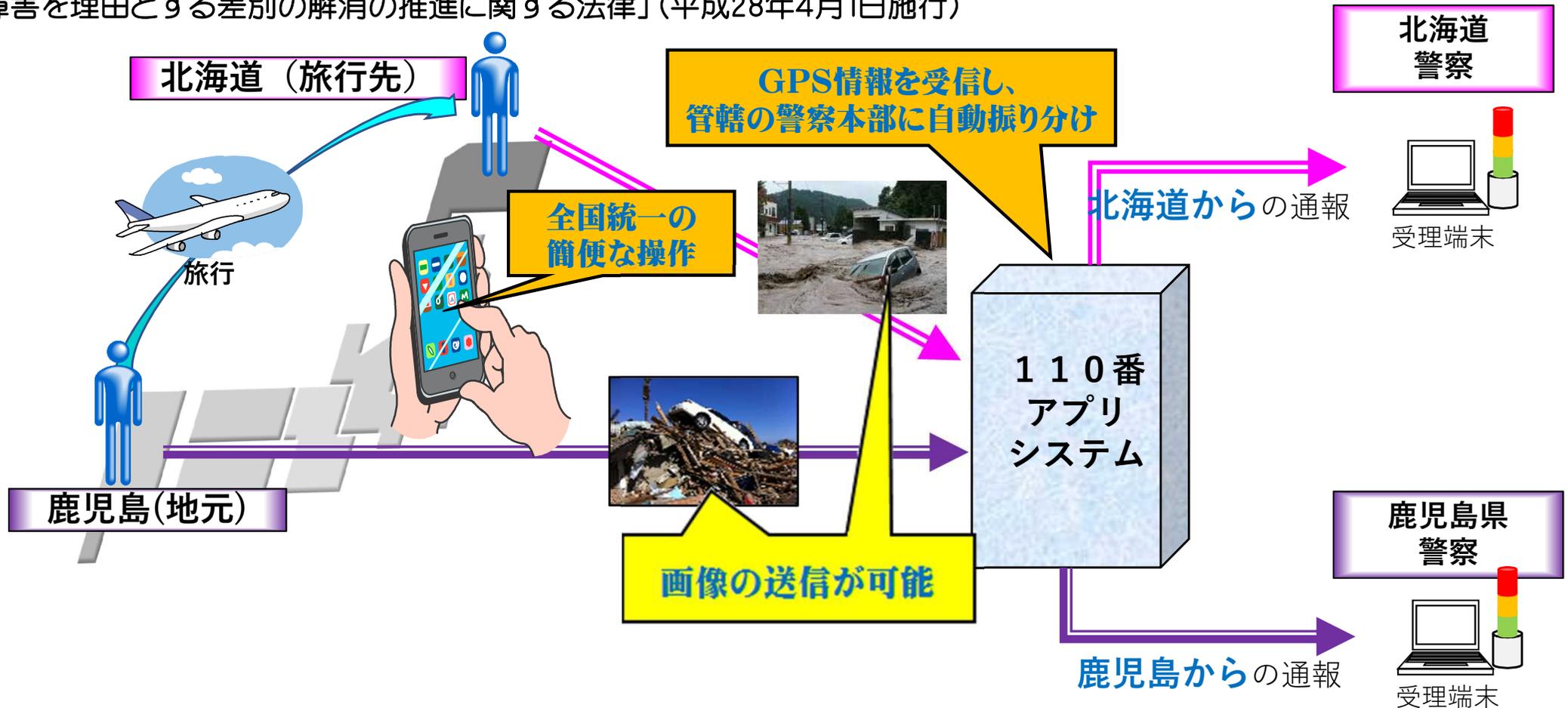
削減効果

約47%の工事費削減  
（平成30年度～令和2年度平均）

# 通信指令業務改善に向けた取組 ～音声による110番通報が困難な方への対応～

- ▶ 聴覚障害者等、音声による110番通報が困難な方が、チャット形式で緊急通報するためのシステム（110番アプリシステム）の整備・運用

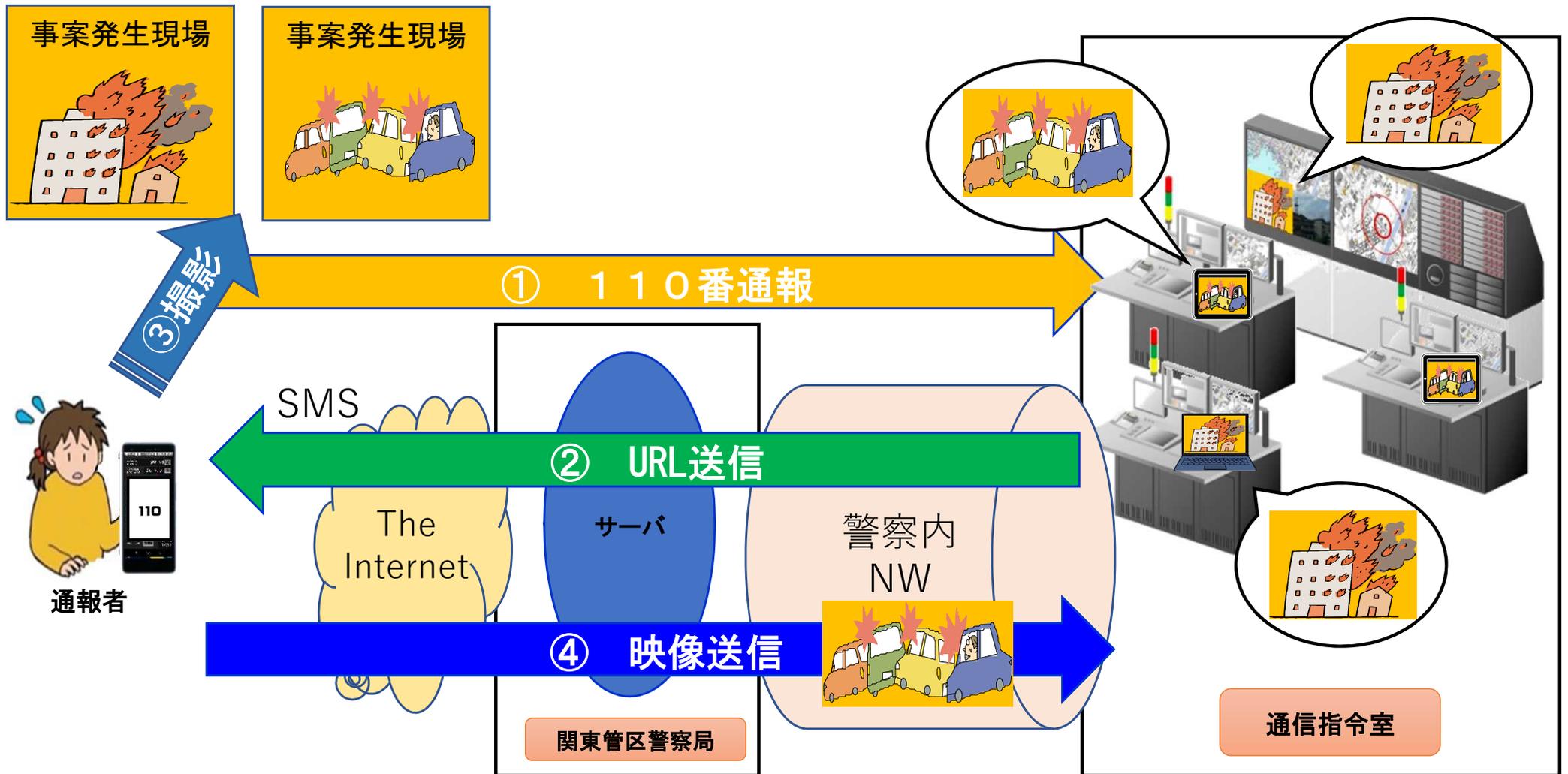
「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成28年4月1日施行）



聴覚障害者等の安全・安心の確保に大きく貢献  
(令和元年9月1日運用開始。現在、約8千人の方が登録)

# 通信指令業務改善に向けた取組 ～現場映像を活用した通信指令機能の強化～

- 現場映像を通報者に撮影・送信してもらい、音声による説明だけでは把握が難しい現場の詳細な情報を瞬時に把握するためのシステム（110番映像通報システム）の整備



- 映像により正確かつ詳細に状況を把握し、迅速かつ的確な指令が可能となる。
- 通報者への聴取、目撃者への聞き込み等に要する時間が大幅に短縮される。

# 110番通報の現状

- 110番通報受理件数は約840万件（令和2年）  
1日当たり約2万3千件（約3.8秒に1件）  
国民約15人に1人の割合で利用したことになる。
- このうち、約16.1万件（約19.2%）は警察官による緊急の対応を要さない通報である。（「高齢の父親に運転免許証を返納させたい。」等）



## 110番通報制度の適正な運用の推進 ～緊急の対応を要しない110番通報の縮減への取り組み～

毎年1月10日を「110番の日」とし、この日を中心に全国警察において  
○事件・事故等の緊急の対応を必要とする場合における110番通報の利用  
○上記以外の場合における警察相談専用電話（#9110）等の各種相談電話の利用  
を広く国民に呼びかけ、110番通報制度の適正な運用の推進を図っている。

（主な活動内容）

警察庁・・・全国警察の110番統計を広報、新聞突き出し広告、ラジオスポット  
都道府県警・・・著名人を一日通信指令本部長に委嘱、110番統計の広報、広報動画、  
ポスターの掲示

# 通信指令技能向上に向けた取組

## 全国通信指令・無線通話技能競技会

- 本部通信指令室員（110番受理・指令）、警察署通信室員、現場警察官の4人1チームで、通信指令技能、無線通話技能、事案聴取技能等を競うもの。
- 本大会に向け、各都道府県では、教養・訓練等が実施されている。

## 学校教養

- 警察大学校、管区警察学校に全国警察から通信指令担当者を招致し、集合教養を実施（例年84人に対する教養・研修を実施）。

## 技能伝承教養

- 警察庁指定広域技能指導官（通信指令）8人を全国警察に派遣し、技能伝承教養を実施している。
- 各都道府県警察では、技能指導官、技能指導員等を指定した教養・研修を実施（令和2年度1,292人を指定）。